

■黒川真頼 国学者、美術史家、歌人。広汎な学識で、学界・美術界に幅広く活躍し、多数の考証学的な貢献をした。

くろかわまより

少年の追放・1829＝ 上野国山田郡桐生町で、養子として機業家を継いだ金子治則の子に生まれる。母は星野氏。幼名嘉吉。  
富籤流行・1830＝ 1歳： 右眼を患い、母に連れられて越後国の温泉に行き、失明は免れるものの、生涯、視力は極端に落ちる。  
鼠小僧磔・1832＝ 3歳： 弟が誕生

滑稽+人情本 1835＝ 6歳： 和歌を詠み、両親に感心される。  
・ ・ ・ ・ ・ 1836＝ 7歳： 妹が誕生。

大塩平八郎乱 1837＝ 8歳：  
適塾ホブソンの 1838＝ 9歳：

学問を好み、

天保改革始・1841＝12歳： 黒川春村が自分の師の故郷に來訪したところを訪問し、**黒川春村に入門**、

国語・国文・音韻・和歌を学び、

天保改革終・1844＝15歳： 祖父母の願いで、近江国多賀宮を参詣、ついでに、京阪、四国を周遊。

阿部正弘首座 1845＝16歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝18歳： 「三代集拾玉抄」3巻、  
・ ・ ・ ・ ・ 1848＝19歳： 次弟が誕生。結婚。「新勅撰集愚考」以降、しばしば著作を師に見せ、その指導を受ける。  
北斎没・ ・ ・ 1849＝20歳： 長男が誕生。家督を相続し、吉右衛門を襲名。「日本書紀伝」2巻。  
国定忠治磔・1850＝21歳： 「宋の世の物語」「からくの物語」、  
尊徳報徳論・1851＝22歳： 妹が結婚。「いひつたへたる昔物語」、  
万次郎帰国・1852＝23歳： 領主酒井大学頭忠良から父母孝行・家業出精で褒賞を受ける。  
ペリー来航・1853＝24歳： 「新撰上野国志沿革図説」2巻、  
開国開港・1854＝25歳： 「皇国沿革図説」、

松下村塾・ ・ ・ 1856＝27歳：

蕃書調所・ ・ ・ 1857＝28歳： 次男が誕生。発病して身体衰弱し、病臥するなか、

五ヶ国条約・1858＝29歳： 祖母が死去。「上野歌考及薩峠考」「赤城百首」、

安政の大獄・1859＝30歳： 妻まで病臥し、家事ままならず、

桜田門外変・1860＝31歳： 「上野国旧事問答」、

遣欧使節・ ・ ・ 1861＝32歳： 妻が死去。

生麦事件・ ・ ・ 1862＝33歳： 祖父が死去。再婚後、ようやく回復。

8月18日政変 1863＝34歳： 三男が誕生。**師の春村が病臥するに際し、その学統の後継を請われて、養子となり**、

禁門の変・ ・ ・ 1864＝35歳： 自宅が類焼し、仮住まい。

薩摩藩士密航 1865＝36歳：

薩長同盟・ ・ ・ 1866＝37歳： 四男が誕生。**その死去で、家を嗣いで、黒川姓を名乗り**、

大政奉還・ ・ ・ 1867＝38歳： 以後、日本橋小網町に住み、**門人に国学を教授するうち**、

明治維新・ ・ ・ 1868＝39歳： **維新となり**、

戊辰戦争終・1869＝40歳： **府県学校取調御用を命ぜられ、大学少助教からに中助教となり**、

学藩置県・ ・ ・ 1871＝42歳： 次男が死去。浅草小島町に転居。木村正辞・横山由清「語彙」編纂に参画、**文部権大助教から文部中助教**、

学問のすすめ 1872＝43歳： 長女が誕生。**\*文部省で「小文典」3巻、「文典大意」**以後、**該博な学識を買われて**、

明治6年政変 1873＝44歳： 教部省から吉田神社宮司権大講義を命じられるも即日辞表を出して、文部省に復帰、「文典う

ひまなび」「史略考証」3巻、ローマ字で百人一首を綴り出版。

佐賀の乱・ ・ ・ 1874＝45歳： 「御諭号及年号読例」を出版し、**以降3年かけ「国史案」12巻編纂**、

初の民間工場 1875＝46歳： 五男が誕生。皇室系皇位継承編の編纂のため**元老院に出仕、権大書記生から**、

三つの反乱・1876＝47歳： この前後。{洋々社談}に諸論を次々寄稿。**大書記生になる**。

西南戦争・ ・ ・ 1877＝48歳： **内務省に転じて、博物館創設、パリ万博出品や内国勲業博の表彰等にかかわり**、

大久保暗殺・1878＝49歳： 実母が死去。

沖繩県編入・1879＝50歳： 博物館から「穴居考」「上代石器考」出版。

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝51歳： 博物館から「天日槍帰化時代考」「蘇那曷叱如来朝考」出版。

明治14年政変 1881＝52歳： 東京学士会会員になる。農商務省とも連携して、博物館業務を推進。三田葆光の質問に答えて、本居宣長の

「玉の緒」について論じ、三田が記録して、

新体詩抄・ ・ ・ 1882＝53歳： 弟が死去。

岩倉具視没・1883＝54歳： 「御冠沿革考」3巻。史学協会で朝鮮史を講演。**「玉の緒変格弁」**。博物館図書課兼史伝課事務取扱から、

秩父事件・ ・ ・ 1884＝55歳： 「語彙」全13巻が完結。第3回内国勲業博覧会審査官。以後、各所で様々なテーマでの講演が続く。

内閣発足・ ・ ・ 1885＝56歳： **\*博物館図書課長兼史伝課長(まもなく非職)まで、新政府の諸分野で活躍**。

帝国大学始・1886＝57歳： 文部省依頼で「国史要略」、

国民之友始・1887＝58歳： 「崇神天皇以前無年貢考」。農務局依頼で「大日本農史農政類編」。**大百科事典「古事類苑」編纂委員となり**、

**帝王部を担当**。

初の対等条約 1888＝59歳： 養母が死去。宮内省御歌所寄人。東京美術学校準備の業務中、人力車から落ち、左足が歩行不能に。**「工芸**

**志料」**。文学博士、**東京美術学校開校とともに教授**、

帝国憲法発布 1889＝60歳： **東京美術学校開校とともに教授**、

帝国議会始・1890＝61歳： 「本教大意」「本邦学問説」「和歌所考」「政事の本義」、

足尾鉞毒始・1891＝62歳： 天長節唱歌「今日のよき日」の歌詞を作成。浜田健次治郎と共著「日本通史」、

大本教・ ・ ・ 1892＝63歳： 正倉院御物整理掛、

郡司千島探検 1893＝64歳： **\*東京帝国大学文科大学教授、東京音楽学校教授に就任**。

日清戦争始・1894＝65歳： 「今様歌の沿革」、

白馬会・ ・ ・ 1896＝67歳： 三男が死去。

八幡製鉄始・1897＝68歳： 勲五等瑞宝章。

子規句歌革新 1898＝69歳： **\*中風に罹り、通常の勤務ができなくなり**、

戊辰戦争終・1869＝70歳： 長男が死去。勲四等瑞宝章。**中風が再発、以後は居起不自由となり、公職を辞して療養に専念**、

田中正造直訴 1901＝72歳： 師春村のものをもとにした「増補考古画譜」刊行、

日露戦争終・1905＝76歳：

満鉄発足・ ・ ・ 1906＝77歳： 浅草小島町の自宅で**没した**。

黒川真道「文学博士黒川真頼伝」、